**倉場富三郎**

倉場三郎はトーマス・B・グラバー(1838~1911年)と日本人女性・加賀マキ(故1903)の息子である。マキは富三郎を6歳くらいまで育て、グラバーは富三郎を自分の家に連れて行った。

長崎の鎮西学院、東京の学習院に通い、オハイオ・ウェスリアン大学、ペンシルバニア大学に留学。彼は1894年に長崎に戻り、父親の元従業員によって設立されたホーム・リンガー商会で働き始めた。そこで働いていた富三郎は、トロール漁業を日本に導入し、漁業に革命をもたらした長崎汽船漁業会社の設立に貢献しました。また、南西日本で発見された海産生物の水彩画800点以上を収録した「グラバー図譜」の編纂でも知られる。

1899年、富三郎はイギリス人商人の娘で日本女性である中野ワカ(1875~1943年)と結婚。彼らは長崎で悠々自適の生活を送っていたが、1930年代後半、日本社会は外国人嫌悪とナショナリズムに捕らわれ、彼らの国際的なつながりが厳しく問われるようになった。

ワカは1943年に亡くなり、1945年8月26日、長崎への原爆投下から二週間後に富三郎は自宅で自殺した。二人の間に子供はいなかった。

--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

|  |  |
| --- | --- |
| 採用番号NO： | 023-023 |